

見極める**智**、**育**む**活**力

県内経済3団体トップ、新年の決意



今年の一字を記した色紙を披露する(左から)柳原幸一筆頭代表幹事、村瀬幸雄会長、林敬治会長＝岐阜市長良、岐阜グランドホテル

挑戦へ積極的に提言活動

県商工会議所連合会、県経営者協会、県経済同友会の県内経済3団体は16日、岐阜市内のホテルで新春の記者会見を開いた。物価高や人手不足の深刻化など懸念材料が多い2026年。各団体のトップは、今年に懸ける思いを「智」「育」「活」の一字に込めた。

(松浦健司、玉田健太)

県商工会議所連合会の村瀬幸雄会長(上六銀行会長)は「智」を示した。人工知能(AI)が浸透する社会において「人間はAIで膨大なデータと知識を集めるだけでなく、本質を見極め

る智が重要」と強調。「AI時代だからこそ、好奇心、向上心を持って、知識を深めていくことが求められる」とも述べた。今の産業政策は規制緩和の時代と違い、国と行政、産業界の協

岐阜市内のホテルで開いた県内経済3団体の新春懇親会には、財界人ら約300人が集まった。不確実性の高い時代に、経営にどう取り組んでいくのか聞いた。

バローホールディングスの田代正美会長兼CEOは、バローを含め、スーパーマーケットが相次いで域外に出店攻勢をかけている現状に言及し「今年は寡占化が一気に進む」とみる。中部地方地盤のバローは関東と関西に攻め込んでおり、「われわれには大きな市場が待っている。関東・関西の企業が中部に入り込んできても、たいしたことはない」と強気の構え。

西濃運輸の高橋智社長は「トラック輸送能力が不足する物流の2024年問題が解決したわけではない」と指摘。今年のスローガンである「協創」に触れ、「同業他社と枠を超えて協力す

い」と力を込めた。

県経営者協会の林敬治会長(大垣共立銀行頭取)が掲げた一字は「育」。人手不足の中、「社員を育てることが従来以上に必要になってくる」と説明。「企業価値を高めていくには、今年は人の育成が大事なポイントだ」と指摘した。また、協会の重点方針として「企業経営における人の問題を

テーマに取り組んできたが、2026年も変わりはない」と強調。「多様な人材の確保と働き手の能力開発の両面にアプローチする」とした。

県経済同友会の柳原幸一筆頭代表幹事(鶏飼会長)は「活」の一字を示し「企業の動きをより大きく、より高く、より前に押し出したい」と意気込んだ。「企

業はさまざまなことにチャレンジしてほしい」とも述べた。今年の日本経済の見通しについて、最低賃金の引き上げや賃上げのほか、家計の金融資産から得られる利息、配当収入増によって個人消費の増加が見込まれると予測。「経済展望をもとに、提言活動を積極的に展開していく」と決意を新たに示した。

不確実性「チャンスにも」

「Iもうまく使いながら、原価改善や技術開発、ものづくりに取り組んでいくことが大切」と述べた。

TYKの牛込進会長は「変化の激しい時代だが、需要の転換につまぐ乗り、新たなニーズに対応していくことが大切だ」と強調。「非常に大きなチャンスであり、ニーズに合った新製品をどんどんつくっていく」と

財界人、経営に決意 懇親会

つつ「デジタルと紙のそれぞれの良さなどがリンクしていく年」とし「しっかりと人に投資をし、稼いだ利益を社員に還元できるようにしたい」と述べた。

来年、横濱市で開催する国際園芸博覧会で施工が決まっている岐阜造園の山田準社長は「大阪・関西万博の時のように市場が拡大する大規模イベントに注力したい」と語った。

ることで、物流を止めない」と決意を述べた。

太平洋工業の小川信也会長は「ハイブリッド車主流となれば日本車の強みが出る。中国の攻勢はあるが、トヨタ自動車をはじめ各社しっかり生産してもらえると思っている」と。人材を最重要とし「人が技術をつくる。一人一人の能力を高め、A

力を込めた。関、美濃市に生産拠点を置くフェザー安全剃刀(大阪市)の岸田英三社長は、世界の地政学的リスクなどを挙げ、「何が起ころうとも耐えられるような強い会社になければ」と語った。

サンメッセの田中尚一郎会長は、デジタル化やAIの進展などで先行きが見通しづらいつ